

男女のよりよいパートナーシップを

ゆうCan

杉並区立男女平等推進センター情報誌

2022年
67号

令和4年2月5日に開催した「性的マイノリティ理解促進講座」において
ロバート キャンベルさんをお招きしてご講演いただきました。
今号では、その内容の一部を紹介します。

『違い』を持つ人々との素敵な日々に向けて



日本文学研究者・早稲田大学特命教授
ロバート キャンベルさん Robert Campbell

ニューヨーク市出身。専門は江戸・明治時代の文学、特に江戸中期から明治の漢文学、芸術、思想などに関する研究を行う。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組出演など、さまざまなメディアで活躍中。

学へ留学した頃は、ちょうどエイズが世界的に恐れられていた時期で、ゲイ（※）男性への偏見が広がっていたため、周囲の人々に対して、自分がゲイだと言う勇氣はありませんでした。セクシャリティについては、当事者から言わないとわかりませんが、私は研究者になるという志をもって来日し、九州大学で国文学の専任講師として多くの学生に教える立場であること

は10代の頃まで、さまざまな人種が肩を寄せ合って暮らしている、ニューヨーク市のブロンクス地区に住んでいました。14〜15歳の頃から男性に憧れる気持ちが芽生えたのですが、性的な感覚を抑えることはなく、家族や周囲の理解を得て、自然に表すことができました。

日本への留学前後の状況

私はセクシャリティ（※）について専門的な知識があるわけでもなく、活動家でもない、普通の杉並区民です。これからお話しすることは、私の公的な活動や職業とは関係なく、私の人生において、また私の身近な人々にとって重要な一面としてお話ししたいと思えます。

はじめに

から、公には言わずじまいでした。

当事者が「いっしょにいるよ!」と言える社会へ

私がゲイであることを公表したのは、2018年に、ある衆議院議員が雑誌に寄稿した「LGBTには生産性がない」との主張に対し、私自身のブログで反論したことがきっかけでした。自分の意識や経験をその反論の真ん中に置かないと、説得力がないと思ったからです。メディアで取り上げられた際、「見ましたよ」と多くの声を掛けられましたが、日本人の場合、どう感じたかは言いません。このため、私は、もう少し早く公表して、LGBTの人たちが、他の人たちと同じように努力した分、報われる社会空間を作っていければよかったですと思いました。自分が公表したことをきっかけとして、少し意識が変わったのです。

カミングアウトするのは、結構勇気がいることで、今のところセーフティネットがありません。2015年の一橋大学アウティング事件では、法曹を目指す性的マイノリティの若者が、法律に守られることなく自殺してしまう痛ましい事態となりました。性的指向に関わらず、人に惹かれ、人を愛するということは、生きるものとしての能力や活力の源です。しかし

考えてみよう?

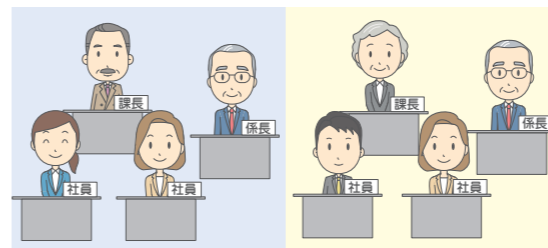
その表現③ 男女間が優劣・上下の関係になっていませんか?

杉並区で情報を発信する際、男女共同参画の視点からより望ましい表現に工夫するために活用している「男女共同参画の視点で伝える表現ガイド」から一部を紹介します。

いつも男性を指導的な立場、守る側として描いていませんか? 女性を従属的な立場、守られる側として描いていませんか? 男女間に主従・上下・優劣・強弱の関係があるかのような印象を与える表現は避け、男女は対等で、地位や立場もさまざまであることを示す表現をしましょう。

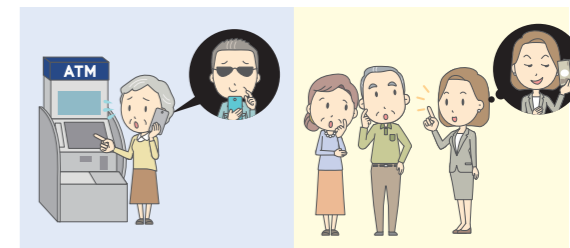
例 1

上司は男性で 部下はいつも女性? → 女性の管理職も 増えています



例 2

加害者は男性で 被害者はいつも女性? → 被害にあうのに 性別は関係ありません



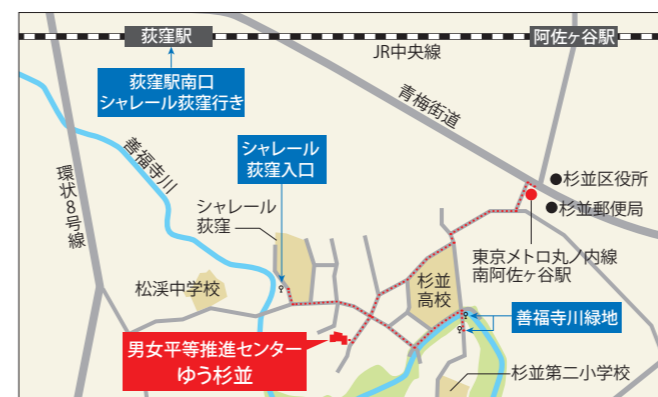
杉並区立男女平等推進センター 情報・資料コーナーの整備と有効活用について

令和4年4月より、杉並女性団体連絡会と杉並区の協働提案事業が始まりました。男女平等推進センターの蔵書(約3,500冊)について、日本十進分類法に基づき分類見直しを行い、大変見やすく、探しやすく、使いやすくなりました。利用登録すると貸出図書を1回5冊まで、15日間借りることができます。本を紹介するブックリスト「ゆう杉並で見つけた!」も隔月で発行しています。さらに9月からは毎週土曜日の1時半〜4時半、レファレンス(調べもの相談)を行っています。あわせて第1土曜日には各自が好きな本を紹介する会、第3土曜日にはテーマを決めた読書会を行います。皆さん、ぜひ男女平等推進センターにお越しください。



情報・資料コーナー
8月に岸本区長が視察のため来館しました。

ゆう杉並 杉並区立男女平等推進センター



- 関東バス 荻窪駅南口発
シャレール荻窪行→「シャレール荻窪入口」下車→徒歩5分
- 杉並区南北バス「すざ丸」けやき路線
JR阿佐ヶ谷駅→井の頭線浜田山駅「善福寺川緑地」下車→徒歩10分
- 東京メトロ丸の内線「南阿佐ヶ谷駅」下車 徒歩15分
※駐車場はありません。

- 開館時間
9:00~17:00
- 休館日
月曜日(祝休日の場合は翌日)
12月28日から1月4日まで
- 住所
〒167-0051 杉並区荻窪一丁目56番3号 TEL.03-3393-4410

杉並区公式ホームページでは過去に発行した情報誌「ゆうCan」をご覧いただけます。



こちらから
ご参照ください!

男女平等推進センターからのお知らせ

～令和4年度 杉並区立男女平等推進センター啓発講座を紹介します～

講座名 企画・運営団体	内容・講師	日時	会場
ジェンダーを子育てから考えよう NPO法人親子コミュニケーションラボ	あなたの中のジェンダー問題 講師：東京大学名誉教授 汐見稔幸	7月21日(木) 午前10時～正午 終了	高井戸地区 区民センター
	3歳からの性教育 講師：親子コミュニケーションアドバイザー 天野ひかり	10月8日(土) 午前10時～正午 終了	
	夫婦ライフバランス 講師：兼業主夫／放送作家 杉山ジョージ	11月26日(土) 午前10時～正午	浜田山会館
知る・学ぶ・体験する 「ジェンダー平等なケア」 creo(くれお)	パパ子で楽しむ!「ボール遊びはパパの出番」 講師：NPO法人ワセダクラブ理事 後藤禎和	令和5年 1月14日(土) 午前10時～正午	高円寺学園 小学部
	さよなら、「ケアレス・マン」 講師：文筆家 清田隆之	令和5年 1月22日(日) 午後3時～5時	産業商工会館
【妊娠・出産前のパパ教室】 ～産前からできることを知ろう・学ぼう～ パパママ子育て応援部Hiタッチ!!	妊娠・出産前のパパ教室 講師：パパママ子育て応援部Hiタッチ代表 野崎聡司	10月2日(日) 午前10時～11時30分 終了	産業商工会館
	妊娠・出産前のパパ教室 講師：パパママ子育て応援部Hiタッチ代表 野崎聡司	令和5年 2月5日(日) 午前10時～11時30分	
レッツボウサイプロジェクト ～女性のための防災講座～ NPO法人防災コミュニティネットワーク	災害時女性が安心、安全に生き延びるために 講師：減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表 浅野幸子	10月9日(日) 午後1時～3時 終了	西荻地区 区民センター
	災害対応力を強化する女性視点 講師：NPO法人防災コミュニティネットワーク 中嶋渉	11月23日(水) (祝) 午後1時～3時	
炊飯器で料理! お父さんのホメられ時短メシ NPO法人まちのおやこテーブル ※全3回(連絡講座)	炊飯器料理の魅力(父親のみ) 講師：かていかやHitoshi	9月4日(日) 午前10時～正午 終了	ウェルファーム 杉並
	子どものできた!を増やすポイント 講師：国際モンテッソーリ教師 小倉有可里	9月18日(日) 午前10時～正午 終了	
	笑顔で仕事と子育てを両立するヒント 講師：NPO法人まちのおやこテーブル理事長 小林洋子	10月16日(日) 午前10時～正午 終了	

※講座に関するお問い合わせは、男女共同・犯罪被害者支援係(電話:03-5307-0347)へ。 申込、実施が終了している講座もあります。

男女共同参画行動計画の改定について

全ての人が性別にかかわらず等しく認められ、かけがえのない存在として互いに尊重しあい、自分らしさを発揮して存分に活躍することができる男女共同参画社会の実現をめざし、令和4年6月に「杉並区男女共同参画行動計画」を改定しました。

基本理念を「誰もが共に認め支え合い いきいきと輝ける 杉並のまち」と定め、女性活躍を一層推進する観点に立って5つの取組方針を定めました。

今後はこの新たな計画に基づき、区政のあらゆる分野において、さらなる取り組みを進めていきます。計画の内容は下記をご覧ください。

杉並区ホームページ 杉並区男女共同参画行動計画
<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kusei/seisaku/gyousei/bumon2/1013508.html>



男女平等推進センターの窓口に概要版を配布しています。



ながら「男(女)の子らしくないぞ」と教室でいじめられ、社会に出れば、愛する人の性が普通と違うからといって就職に失敗してしまう。一緒に部屋を借りたり、ローンを組んで家を建てたりしようものなら、門前払いを食らってしまふなど、不当な扱いを受ける性的マイノリティの人は決して少なくありません。

人間の核心にかかわる大切な一面である性的指向を隠し続けることで、一人ひとりが社会との間に持つべき接点を希薄にさせるのは本当にもったいないことです。積極的に排除はしないものの、「触れてほしくない」ということが日本の常識・美風であるならば、もはや改める時期にきているのではないのでしょうか。

当事者の方々が、安心して「ここにいるよ」と言える社会を目指すべきです。

結婚式を経て感じたこと

2017年8月私とパートナーは、88歳の実父が住むニューヨーク州北部でアットホームな結婚式をあげました。父から、「君たちは長年一緒に暮らしているのにどうして結婚しないの?」と言われたのがきっかけです。還暦を迎える年に、親からそのようなことを言われ、私は、大変驚くとともにうれしく思いました。

おいしいケーキや食べ物、飾りつけのお花など、父や村の人たちにお膳立てをしていただき、村長が式を執り行つて、父と妹が証人となる目の前で私たちは結婚を誓い合いました。このように、皆に囲まれ、祝福されたことは、私とパートナーにとってとても喜ばしいことであります。

日本に戻ってから日常が大きく変わることはありませんでしたが、あの結婚式のように、「違い」を持つ人々との素敵な日々を送ることができる社会は、性的マイノリティのみならず、すべての人々にとって間違いなくよい社会だと心から信じています。

※1セクシャルリティ…人間の性のあり方。狭義では心の性(性自認)や好きになる性(性的指向)を意味する。
 ※2ゲイ…同性愛者

性的マイノリティについて

- 1 **身体の性**
生まれた時の戸籍上の性別
- 2 **心の性**
(性自認)
自分で自分をどのような性別だと思ふか
- 3 **好きになる性**
(性的指向)
どの性別を好きになるか
- 4 **表現する性**
服装やしぐさ、言葉づかいなど

一人ひとりに個性があるように、性のあり方もさまざまです。「身体の性」と「心の性」が異なる人や、「好きになる性」が異性ではない人もいます。このように、性のあり方が少数派の人たちを「性的マイノリティ」や「LGBT」と呼ぶことがあります。性的マイノリティの人もそうでない人も、みんな多様な性のグラデーションの中を生きています。

「自分の周りに性的マイノリティの人がいるかもしれない」と思って行動することが、多様性を認め合い、だれもがいきいきと輝ける社会につながっていきます。

参加者からのアンケートでは、「皆がありのままに幸せな日常が過ごせることを心から願います。」
 「性的マイノリティ当事者として自己肯定感が高まりました。」等のコメントが寄せられました。
 杉並区では今後も多様な性についての理解促進に取り組んでいきます。

「東京都パートナーシップ宣誓制度」が始まります

人生のパートナーとして歩むLGBT等の二人の生活上の困りごとを軽減するなど、暮らしやすい環境づくりにつなげるため、11月1日よりパートナーシップ宣誓制度が開始されます。都では全国の自治体で初めて、届け出から受理証明書発行までの手続きを原則としてオンラインで実施します。

制度の詳細は下記をご覧ください。

東京都総務局人権部ホームページ 東京都パートナーシップ宣誓制度
<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/10jinken/sesaku/sonchou/partnership.html>

